農業農村整備(NN)事業まんぞく度調査

オホーツク総合振興局
東部耕地出張所
H２７年６月作成

事　業　名	：	地域水田農業再編緊急整備
地　区　名	：	女満別本郷　地区
市　町　村	：	大空町
受 益 面 積	：	531ha
受 益 戸 数	：	49戸
採 択 年 度	：	H20年度
工　　期	：	H20　～　H26

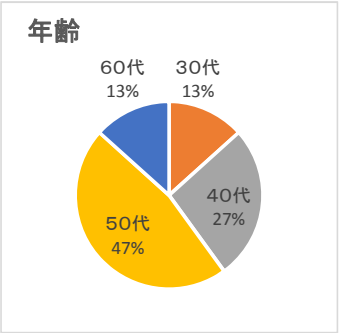
事業内容

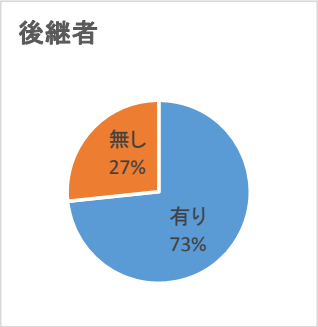
工　種	整　地	暗渠排水	客　土	心土破砕	土壌改良	合　計
区画整理	27.0ha	130.1ha	76.5ha			187.3ha
暗渠排水		259.4ha				259.4ha
客土			145.0ha			145.0ha
用水路	―	―	―	―	―	1,508m
農道	―	―	―	―	―	676.5m

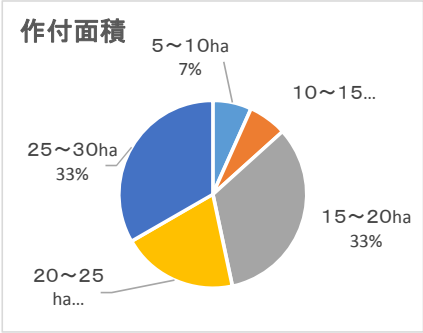
※アンケート調査は面工事を対象

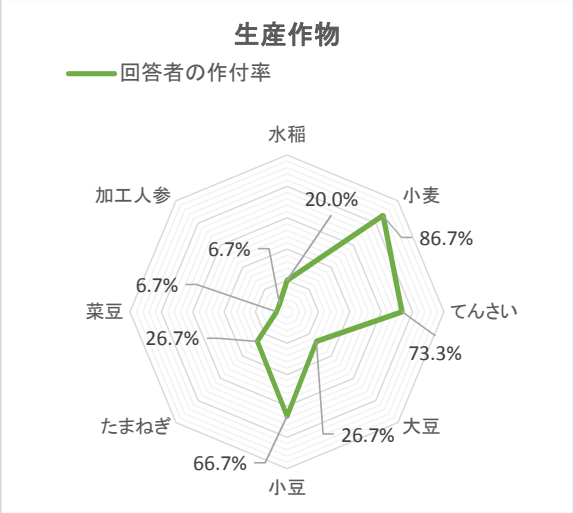
アンケート回収率　　15　／　：　49戸　＝　30.6%

Ⅰ基本事項







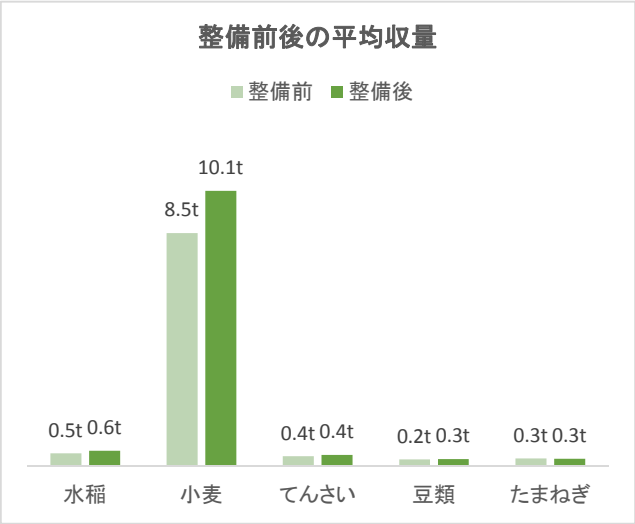


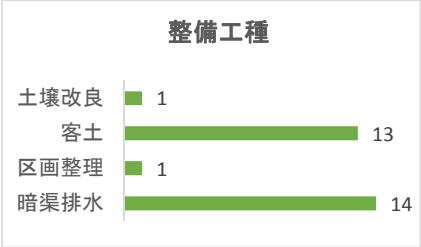
【考察】

年齢：４０～５０代が中心
後継者：７５％程度後継者有り
作付面積：２０ha以上の農家が約半数を占める
生産作物：小麦、てんさいを中心に豆類、たまねぎなどの畑作物に作付転換されている

Ⅱ　事業効果

■１　収量効果：整備前後の平年収量と、減少した場合の理由



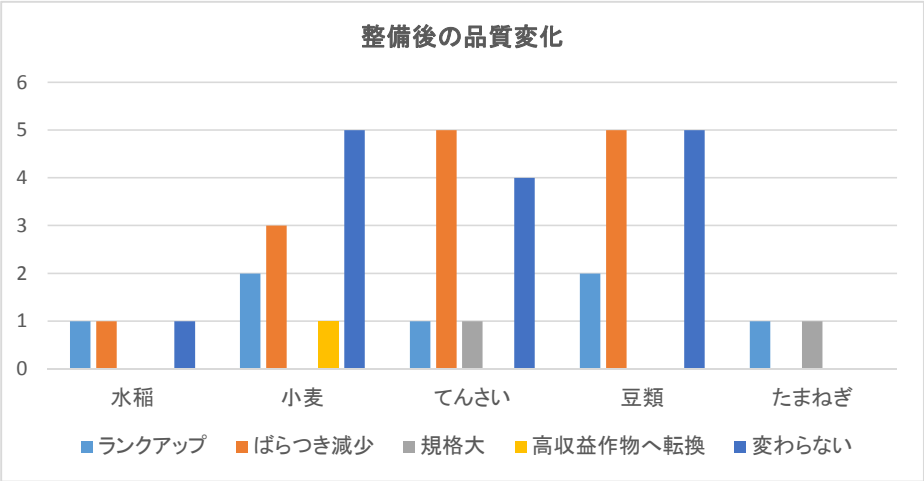


【考察】

小麦の収量が2割程度アップ

水稲、豆類が微増

■２　品質：事業整備後の品質変化

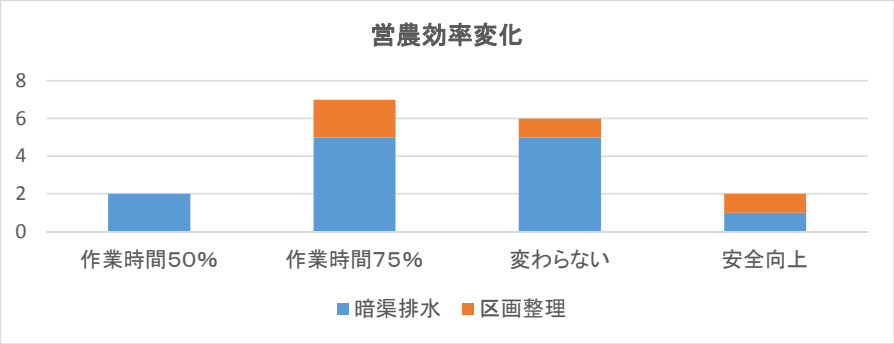


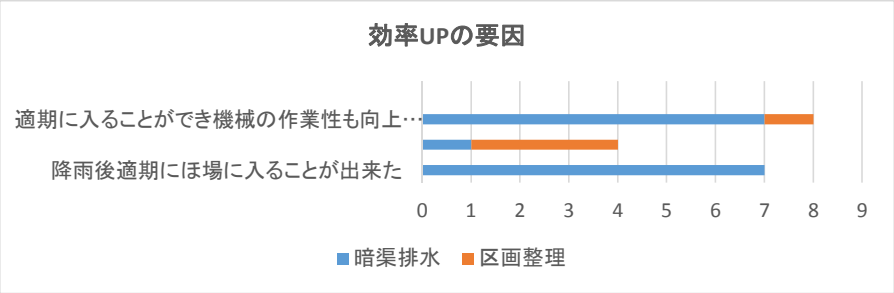
【考察】

暗渠排水と客土が主な整備内容。

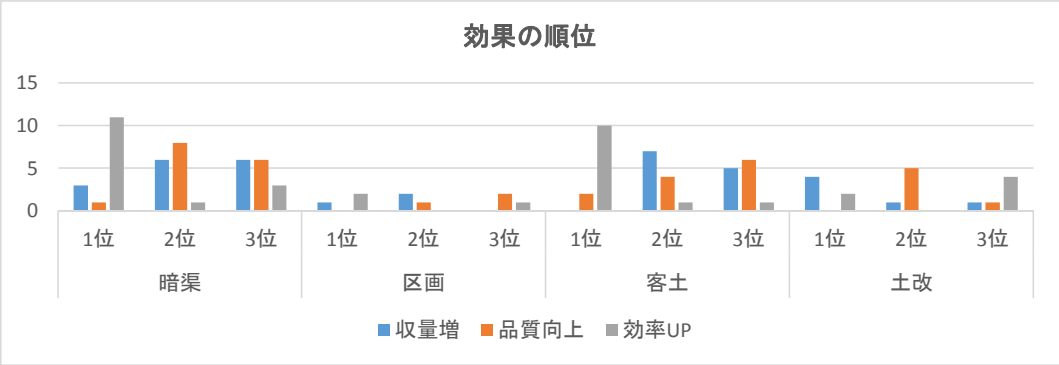
全般にばらつきが減少した。

■３　営農効率：整備後の営農効率の変化とその要因





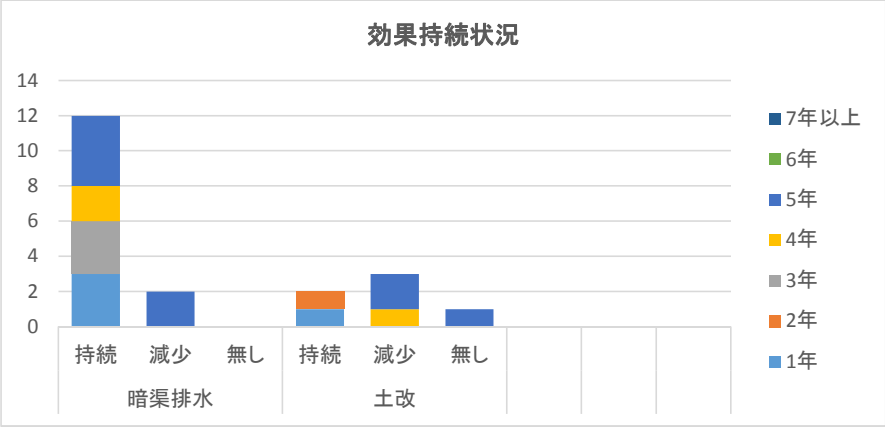
■４　効果の高かった順位（工種別）



【考察】

全般的に作業効率は上がっている。

■５　効果持続状況



○ 効果が無くなった要因

暗渠排水　・大型営農機械による踏圧。

土壌改良　・経年変化による効果減少。
・散布量が少ない。

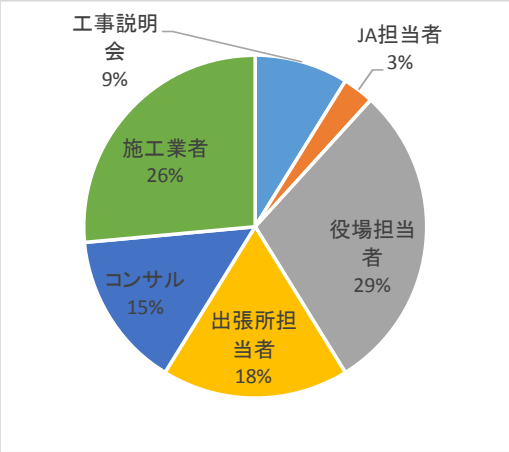
【考察】

暗渠は、７年以上（１５年）経っても効果持続の回答あり。

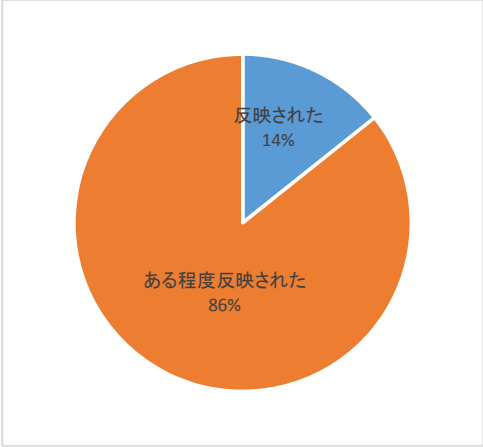
土壌改良は年数経過とともに効果減少傾向。

Ⅲ　工事内容

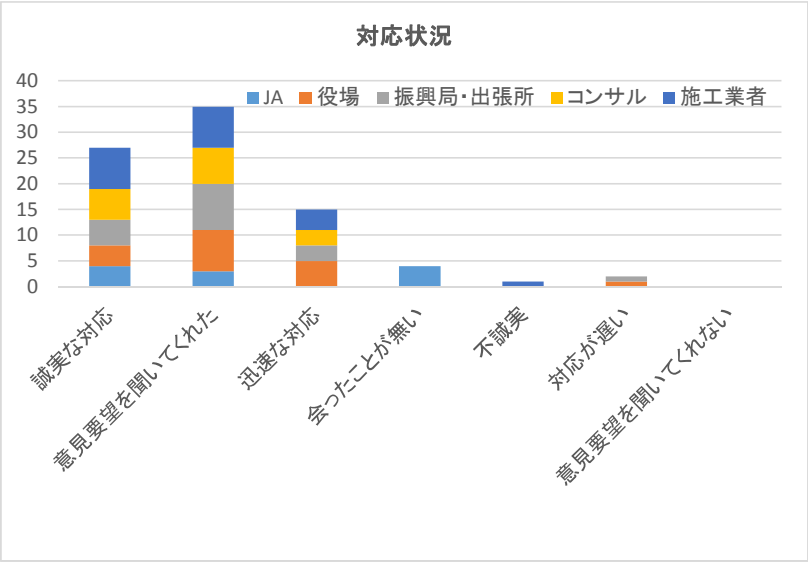
■１　工事に関しての意見要望先



■２　工事への要望反映



■３　所属担当者の対応



■４　工事監督員対応の評価

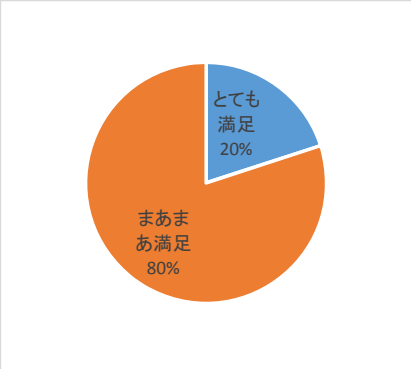
○ 良かった点

- 臨機応変に対応してくれた。
- 地権者の意見を良く聞いてくれた。
- 要望を聞いてくれた。

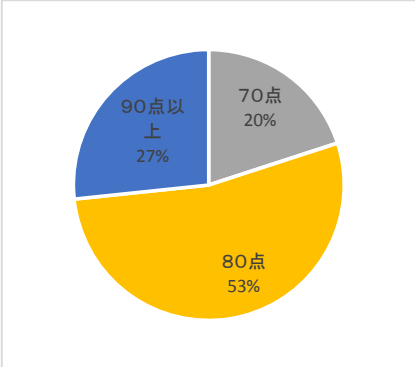
○ 悪かった点

- 対応が遅い。
- 設計業者や施工業者まかせになっていた。

■５　工事の感想



■６　事業全体評価点数

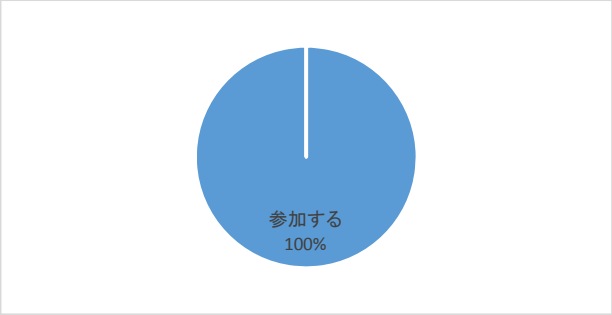


【考察】

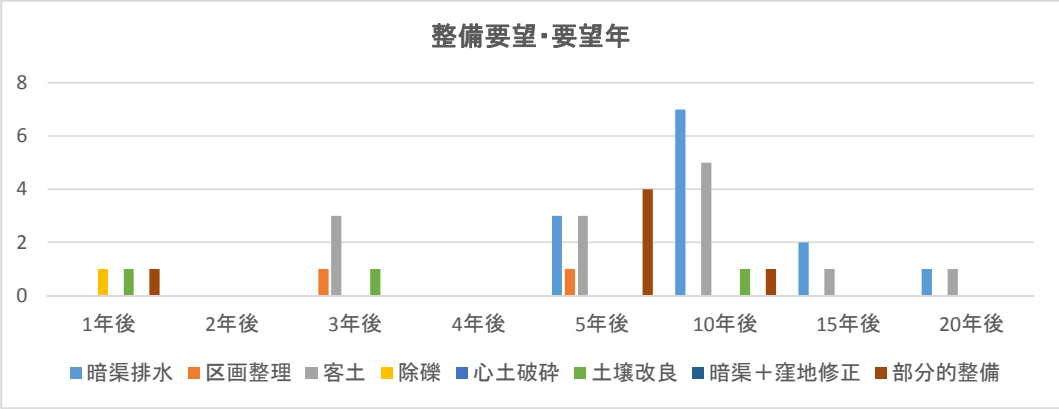
全体的に高評価。

Ⅳ　今後の基盤整備要望について

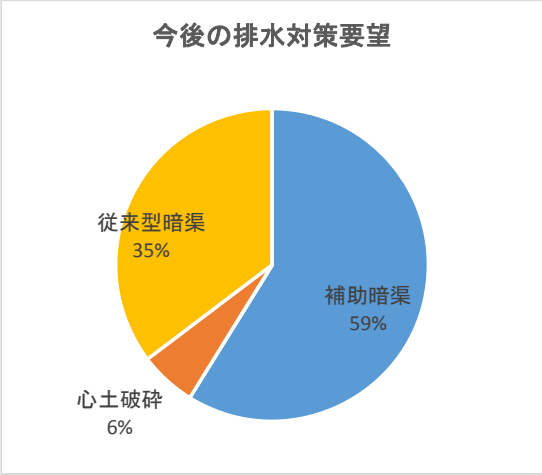
■１　今後も参加しますか？



■２　要望工種・要望年



■３　今後の暗渠排水整備について（補助暗渠を含めた検討）



【考察】

全体的に１０年後の整備要望が最も多く、長期スパンでの整備要望の傾向がある。

既存の疎水材暗渠に対しては、補助暗渠の要望が約５割をしめる。

■４　今後、農業を持続していく上での課題

（１）一番困っていること

- 作物価格の低迷、資材費高騰など収支バランスがとれない。
- 排水対策
- 異常気象による干害により収量減。
- 借地で客土等の整備が必要。
- ほ場の地下水位が高い。
- 経営面積が少ない。

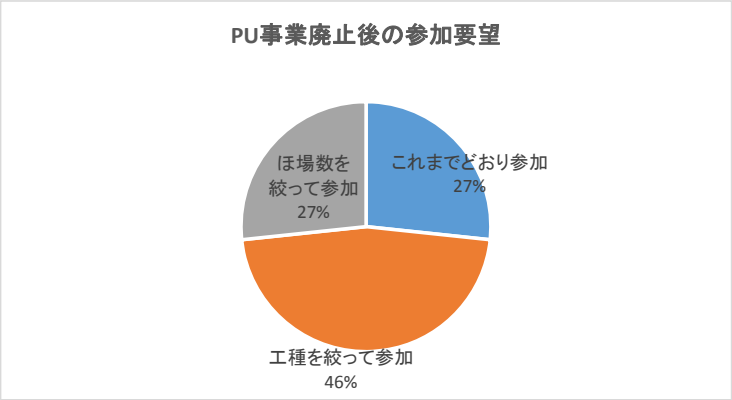
（２）基盤整備により改善できること

- あると思う。
- 水はけが良くなる
- 表土が良くなる。

■５　今後の基盤整備要望

- 客土整備（泥炭がきつく表土が薄い畑）
- 客土整備（前回申請しなかった場所）
- 事業負担を少なくしてほしい
- 堆肥散布（毎年希望）

■６　パワーアップ事業



○パワーアップ事業について意見要望

- 受益者負担が軽減されて助かった。
- 個人での基盤整備は負担が大きいのでＰＵ対策の継続を要望。
- 他の基盤整備事業と重複が考えられるので負担軽減を希望。
- 農家負担軽減のため廃止しないでほしい。

■７　その他

- 農家戸数減少に伴う農地集積加速化に対応した隣接畑との一体的基盤整備の要望。
- 農業用水路を利用した潅水事業の要望。
- 10～15年に1回は暗渠整備等の事業を実施してほしい
- 過去事業の整備経過年数があまり経っていないほ場が先に整備されていたのが不満。事業対応の仕切りが不平等。
- 畑作転換を検討中